



まだまだ暑さが残りますが、次第に秋らしくなっています。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期でもあります。手洗い、うがいをし、生活習慣や環境を整えて病気を予防しましょう。

百日咳にご注意を！

今年は、夏から百日咳の感染が急激に増加し、この秋もまだまだ安心できません。乳幼児では、激しい咳による無呼吸発作、チアノーゼ、けいれんから呼吸停止に発展することもあります。

百日咳の予防には、生後2か月からの定期接種として5種混合ワクチンがあります。予防接種の種類や実施内容、接種の推奨時期についても定められています。(くわしくは、岡山市ホームページの子どもの定期予防接種についてをご覧ください)

それぞれの予防接種を実施する推奨時期は、お母さんから赤ちゃんにあげていた免疫効果の減少や感染症にかかりやすい年齢、かかった場合に重症化しやすい年齢などを考慮して設定されています。

早めに計画を立てて、接種できる月齢・年齢になれば、できるだけ早く接種を受けるようにしましょう。

インフルエンザ予防接種

インフルエンザウイルス感染症は、例年12月～3月頃に流行します。そのため、12月中旬までにはインフルエンザワクチン接種を終えておくことが推奨されています。

インフルエンザワクチンの最も大きな効果は「重症化」を予防することです。

※令和5(2023)年には、経鼻弱毒生インフルエンザワクチンが出ました。2歳～19歳未満に対する使用で、鼻腔内に噴霧するタイプのワクチンです。鼻がすすれない子どもでも接種可能であり、医師が認めた場合には他のワクチンとも同時に接種することができます。

詳しくは、かかりつけのお医者さんにご相談ください。



こんな時は病院受診

子どもは免疫が未発達なため、さまざまな病気にかかります。受診するかどうか迷ったら、いつもの様子とどう違うか、下記を参考に観察してみてください。

受診に迷ったらまずは小児科へ

- 熱がなくてもぐったりしている。
- 水分が摂れない、ジュースをあげても飲まない。
水分が摂れるかどうかは、重要な目安です。脱水や重症化の可能性があります。
- おしっこが半日出ていない。
- 意識が無い、けいれんしている。
初めてのけいれんは救急車を呼びましょう。
2度目でも、5分以上続く場合は救急車を呼んでください。
すぐにおさまったとしても、けいれんが起きた場合には病院を受診しましょう。
- 息が苦しそう、ヒューヒュー、ゼエゼエといった呼吸や唇や顔色が悪い場合は、酸素が足りない可能性があります。



迷ったときの電話相談窓口

受診に迷ったときは **#8000**

厚生労働省「こども医療でんわ相談」

救急車を呼ぶか判断に迷うときは **#7119**

総務省消防庁

「救急安心センター事業をもっとくわしく！」

